

4 教育研究組織

進捗状況報告

2003年度に設定した目標として「既存の二学科の特徴を活かした今後の教育研究組織の在り方の模索」を、また、2005年度自己点検・評価における「改善の具体的方策」として「教育研究組織のより一層の多様化と柔軟化」を掲げている。

これらの目標および具体的方策に沿いながら、社会学部の教育研究組織は抜本的な再編に向けて具体的な準備が進んでいる。2008年度には社会福祉学科が分離独立し、「社会福祉学科」「社会起業学科」「人間科学科」からなる「人間福祉学部」が新設される。他方、同じ2008年度に社会学部内に「社会表象学科」を新設する構想が進められたが、最終的な成案を得るには至らなかった。そこで、社会学部は2009年度を目処に、将来の新学科設置をも視野に入れ、教育研究体制の抜本的改革を行うこととなった。従来の5コース制（「現代社会学コース」「地域・生活・環境コース」「企業・ビジネス・情報コース」「メディア文化コース」「社会心理コース」）を廃止し、3つの系（「メディア・表象系」「社会・共生系」「人間・心理系」）と7つの領域（「メディア」「社会表象」「グローバル社会」「現代社会学」「ソーシャル・ネットワーク」「臨床社会」「社会心理」）からなる教育研究体制を新設すべく準備を進めている。

なお、2005年度の「改善の具体的方策」における「学問領域相互の有機的連携の検討」に関しては、とくに社会福祉学（新設の人間福祉学部）と社会学（既存の社会学部）との有機的連携について検討を始めている。同じく、「現代的な社会問題の解明・解決に向けた「社会調査の手法」「社会福祉」の活性化」に関しては、とくに2008年度に設置予定の「先端社会研究所」構想のなかで具体的な検討を進めている。

学内第三者評価

教育研究組織のあり方の模索、検討を続け、社会福祉学科の分離独立、5コース制の廃止と新しい教育研究体制への準備などを進めていることは評価できる。

2009年度からの社会学部の教育研究体制については現在まだ検討段階にあると思われるが、来年度の自己点検・評価においては系と領域の概念や関係性などについてより詳しい説明を記すことが望ましい。